

サバ類の資源生態研究

(我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 受託 研究期間 平成 7 年度 ~)

担当 : 資源海洋科 吉田 彰

【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁業資源の漁獲可能量(TAC)を決定し、資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられています。それを受け、重要魚種については資源評価のための漁獲統計や生物情報等の収集が実施されています。

マサバ、ゴマサバについても、水揚量調査、体長測定、年齢査定、標本船調査等を定期的実施し、(独) 水産総合研究センターと連携して適正な漁獲量の推定、長期漁況予測を行います。また、県内サバ漁業者の操業の効率化のため短期漁況予測について検討します。

【これまでに得られた成果】

- ・マサバ太平洋系群の資源量は 1970 年代には 400 万トン前後で推移していましたが、1980 年代に減少し、1987 年以降は 100 万トン以下の低水準となっています。2008 年現在の資源量は、資源水準の高い 2007 年級群の発生等により約 63 万トンと推定され、低水準の中で横ばい傾向にあると見られます。
- ・ゴマサバ太平洋系群の資源量は、卓越年級群である 2004 年級群により 2005 年に 63 万トンとピークを迎えた後、2008 年現在で 40 万トンと推定され、高水準の中で減少傾向にあると見られます。
- ・サバ類資源の維持が可能と考えられる 2010 年漁期の漁獲量は、マサバ太平洋系群で 8 ~ 26 万トン、ゴマサバ太平洋系群で 11 ~ 23 万トンと推定されました。
- ・今後、本県周辺・伊豆諸島海域で漁獲対象となるサバ類の年齢組成は、マサバについては資源水準が高いと推定されている 3 歳魚 (2007 年級群) 主体、ゴマサバについても同じく 3 歳魚 (2007 年級群)、1 歳魚 (2009 年級群) と見られます。

* n 年漁期 = n 年 7 月 ~ n+1 年 7 月

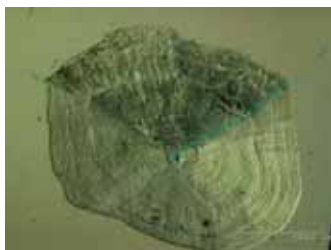


写真 : 年齢査定に使用するゴマサバの鱗

【期待される成果】

- ・適正な漁獲量の提言と漁獲制限の実施により、サバ類資源の維持安定が期待されます。
- ・漁況予測により、サバ漁業者等の経営の安定が図られます。

【今後の計画】

- ・標本船調査、各種海況資料等を基に、サバ漁業の短期漁況予測手法を検討します。
- ・県内サバ漁業者にとって重要な、伊豆諸島海域のゴマサバの資源特性を明らかにします。

(作成 平成 22 年 4 月)